令和４（2022）年度　「災害時の食の備え」県民アンケート

～簡易報告～

公益社団法人鳥取県栄養士会　○森本美由紀　河原千明　澤　裕子
舩原千恵子　三嶋　碧　井田優也
鳥取大学医学部保健学科　上田悦子　野坂奈緒美　藤田宏美

【目的】

鳥取県栄養士会は、令和２（2020）年度より鳥取大学上田研究室と共同で、同居家族に要配慮者がおられる家庭を含めた県民の「災害時の食に関する調査」を行っている。２年毎に３回同じ内容の調査を行うもので、備蓄意識や実践の向上に繋げることを目的としている。

本学会では、令和２（2020）年度結果と比較し、特徴のある一部の結果を報告する。

【方法】

対象は成人の鳥取県民約 1,000 名で、今回調査より 18 歳以上の方も含めた。調査は令和４年８～10 月に実施し、非対面式の Web 回答を推奨し、紙媒体回答も併用した。県内各種団体にも調査を依頼した。調査への同意は、Web 回答は送信、紙媒体回答は調査票の提出をもって取得とした。

内容は前回調査とほぼ同じで、循環備蓄の知識と実践、食備蓄量とその意識等である。回収データは Excel 及び EZR で集計及び分析を行った。なお未回答部分は欠損値として扱い、解析ごとに除外した。

【結果】

有効回収数は 1,063 件、うち Web 回答は 78%（図１）、20 歳未満は５%だった。同居家族に要配慮者がおられる家庭は 17%で、前回より減少した（図２）。その種類は多い順に「嚥下機能低下」32%、「食物アレルギー」28%、「食事制限有」27%で、前回一番多かった「乳幼児」は 21%と前回より有意に減少した（図３）。

ローリングストックについて、「言葉も内容も知っていた」は 42%で、前回より有意に増加し（図４）、「実践している」と「十分ではないが実践している」を合わせると 45%で、前回より有意に増加した（図５）。しかし排泄備蓄実践については「およそ３日分以上」は９%で、前回同様少なかった（図６）。

アンケート後の感想は、「日ごろから考えておく必要があった」が最も多く 57%で、項目順は前回と全て同じだった。Web 回答者の中で「Web 回答は簡単だった」は 23%だった（図７）。

【今後に向けて】

同居家族に要配慮者がおられる家庭の回収数が減少したことから、次回調査は栄養士会員が勤務する職場での調査依頼も検討したい。

ローリングストックの知識や実践の増加、アンケート後の感想から、県民の災害に対する備蓄意識は高まっていると感じる。今後も本会災害対策部の啓発活動を継続し、会員各自が勤務先でできる啓発についても検討したい。

今年度は調査結果の詳細な分析を行い、本会の活動に役立つ情報提供を行い、次回の調査に繋げていきたい。

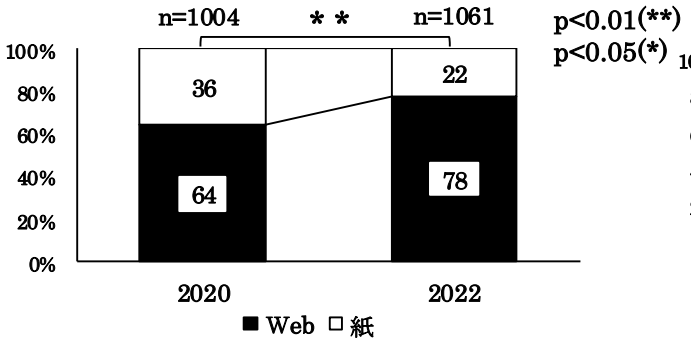

図１　回答媒体

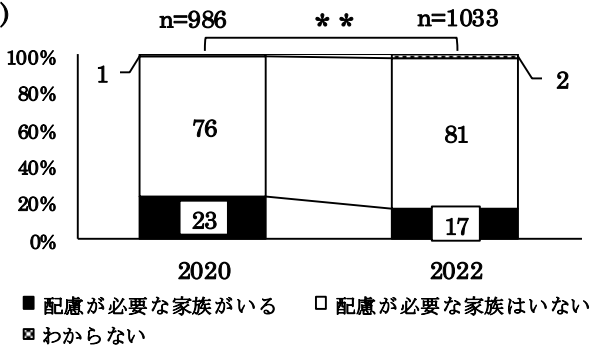

図２　要配慮者の有無

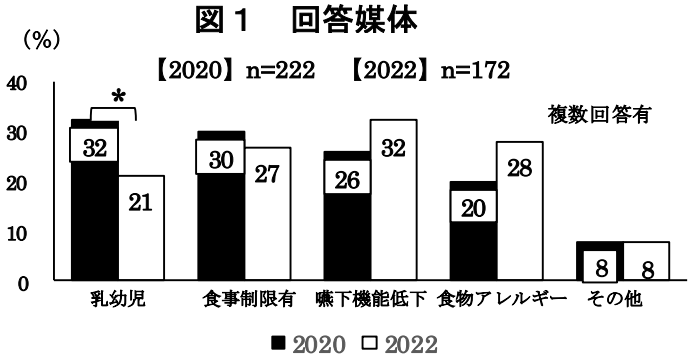

図３　要配慮者の種類

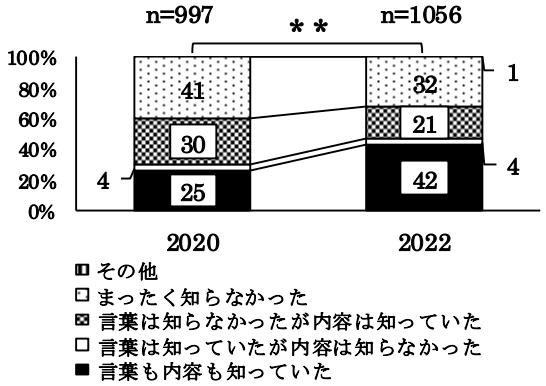

図４　ローリングストックの知識

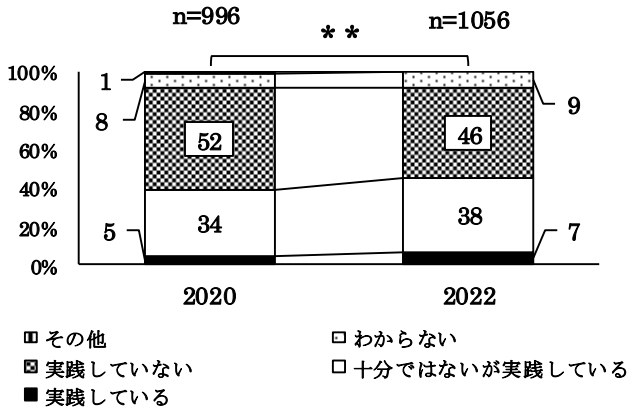

図５　ローリングストックの実践

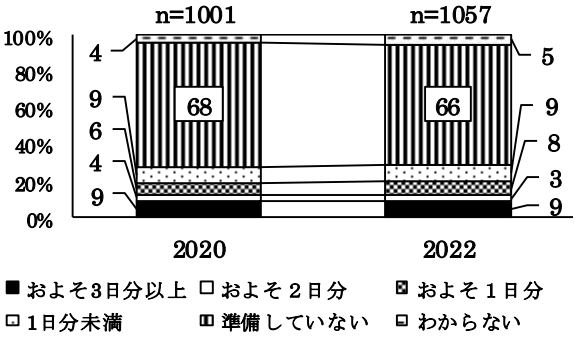

図６　排泄備蓄実践

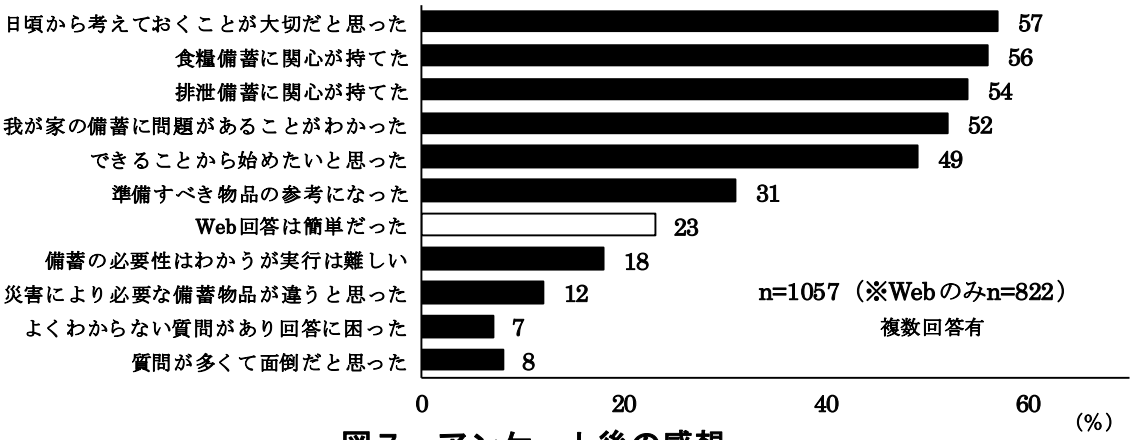

図７　アンケート後の感想